

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第3回 ワクワクする東北



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

私と東北地方の不思議なご縁

4月26日に仙台に着任した。東北地方は初めてだ。今回、東北地方への発令を貰ってまず思ったこと、それは東北地方に不思議なご縁があるなあということ。コロナ禍ではあったが、2年前ぐらいいから、出張で東北地方をしばしば訪れていたのだ。

2年前と1年前の東北出張での出会いは次のとおりだ。①まず秋田に行った時には、ちょうどサクラの季節だったので、途中下車して角館のサクラをみた。②また、青森に2年前に1週間滞在した時には、ちょうど縄文遺跡群の世界遺産登録の勧告が出た。その記事が一面に出ている地元紙を持っているし、三内丸山遺跡も見学した。③加えて、仙台に1年前に来た時には、縮小開催だったが、3年ぶりの青葉まつりの直前で、アーケードに山鉦が飾ってあった。写真を撮りながら、どんなお祭りなのだろうと、想像を膨らませたものだ。

でも、それだけでない。4年前には、前橋支店長を務めていたが、その時に私の3代前の日銀仙台支店長にお誘いいただいて、岩手県三陸海岸を訪れていたのだ。震災の凄まじさを痛感したほか、復興への並々ならない取り組みに、ただ脱帽だった。

でも、これだけだろうかと思って、自分と東北地方の繋がりを調べてみた。そうすると、様々な繋がりがあることが分かった。

①私を含めて最近10名の仙台支店長のうち4名が前橋支店長経験者であること。②仙台と前橋は、両方とも広瀬川、広瀬通り、ケヤキ通りがあること。③前橋支店長の時には尾瀬が好きだったので、何回か訪れていたが、群馬県と東北地方は尾瀬で繋がっていること。④東京に住んでいた時には、吉祥寺に住んでいたが、吉祥寺には東北物産館があり、赴任前にはなぜか駅やスーパーで東北物産展が開催されていたほか、東京での勤務地

の日本橋には福島県のアンテナショップがあること。⑤私は子供の頃10年間九州に住んでいたが、宮城県の大賀城市と福岡県の太宰府市が友好都市であること。色んな繋がりがあっているものだ。

地域活性化のヒント？

こうしたことを確認したのは、今回、東北地方に赴任したからだだが、何らかのきっかけで地元に関心を持ってもらうことは、地域活性化に繋がるのではないかと思った。

すなわち、少子高齢化で人口が減少するなか、地域活性化のためには交流人口を増やしていくことが大事だと言われる。移住までしなくとも、地元に来てもらう人を増やそうということだ。そのためにはどうすれば良いのか。それは、その地域の魅力を効果的にPRして、その魅力を体験しに来てもらうということなのだろう。

そして、地域の魅力については、地元にいる人にとっては当たり前になっているので、外から来たの方が魅力を発見しやすいとも聞いたことがある。

こうしたことが地域活性化のヒントかもしれないと思った。

私は、ここ数年の東北地方への訪問から、魅力の一端を垣間見ただけなので、今後東北地方の魅力をドンドン知っていきたくてワクワクしているし、自分の知り合いにその魅力を発信していきたくて思っている。

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任